

平成 26 年 1 月 19 日

現地を訪問して想うこと

平成 18 年 文学部 卒業
西澤 正美

この大震災で、私が特に心を痛めているものは、原発問題です。

汚染水は漏れ続け、いまだに避難を強いられている人々があり、また避難を自主的な判断に求められている現状では、「復興」という言葉はあまりにも空疎な響きを持ちます。ニュースや現地の友人から話を聞くだけではなく自分自身この目で現場を見ようとの思いから、相馬ツアーに参加希望を出しました。

行く先々で伺う現地の校友の方々のお話、またツアーに参加者として同行くださっている福島県校友会の方々とのやり取り、目にする景色や案内から、福島が以前の姿を取り戻すべく、震災後努力してきた跡を垣間見ました。その結晶である、観光客で賑わう菊人形展開催中の二本松、とっても美味しい果実、等々。

しかし、私はそれを手放しで喜べません。なぜなら私はこのツアー中、ずっとガイガーカウンター（放射能測定器）を持ち歩いていたのですが、やはり地域によっては数値が基準値を超えていたからです。

福島にはこんなに美しい自然やおいしい食べ物があるのに、五感に感じ得ない放射能もあり、そこで暮らす子供たちがいる。この問題を国民全体の問題として真正面から考えないと、本当の復興は当分こない。そう感じた今ツアーでした。